

12月を迎え、神石の空にも雪が舞い始め、やっと冬らしくなってきました。先日、冬期を迎えて一部変更となったバス通学コースを、バスの後をついて一緒に走ってみました。



<薄らと初雪におおわれた神石の山々>

雪道の場合の時間調整のためか、真っすぐな道もバスは速

度を落として走ります。コースのあちこちに残っている夏の豪雨災害の跡を通り過ぎる時は、もっとゆっくりになります。明るくなって間もなく、道路端にお子さんと一緒に立って待っていて下さるお家の方。これまでと違って、大きな道まで車で送り出し、見送って下さるお家の方。バスが見えなくなるまで手を振って見送って下さいます。本当に有難いことだと思いました。大雪や凍結した朝はどうなるんだろうと思うような坂道や停留所もあります。今朝も、当たり前のように登校してきた子どもたちですが、けっして当たり前のことではなく、寢床を出てくるところから始まって学校に到着するまで、お家の方やバス運行に係わる皆さんには感謝の言葉しかありません。

せっかく学校に集まってきた子どもたちですから、「学校に来てよかった。」「賢くなった。」「明日もまた来たい。」と思えるような学校生活が送れるよう、我々教職員も心してかからないと…。改めて責任の重大さと、冬の厳しさの予感を感じさせる初冬の朝でした。

学校長 爲平 祐嗣